

SEV-25F **4-STROKE** エンジンポンプ 取扱説明書（保証書付）

用途

水の移送

用途以外の目的に使用しないでください

目次

はじめに

各部の名称と付属品.....	2
安全上のご注意.....	3

準備

組み立て.....	5
運搬.....	7
給油.....	8

使用方法

作業前点検.....	9
エンジンの始動/停止.....	10

保守・点検

お手入れと保管.....	12
定期点検を行いましょよう.....	13
「故障かな?」と思ったら（故障と処置）....	14
整備.....	15

その他

仕様.....	18
パーツのご注文は.....	19
保証書.....	20

このたびは、本製品をお買い上げいただきありがとうございました。
ございました。

- ご使用前に、この取扱説明書をよく読んで正しく安全にご使用ください。
- お読みになった後も保管してください。
- 本機を他人に貸す場合は、取り扱い方法をよく説明し、取扱説明書をよく読むように指導してください。

保証書に購入店などの記載がない場合は、レシートなどを貼り付けてください。

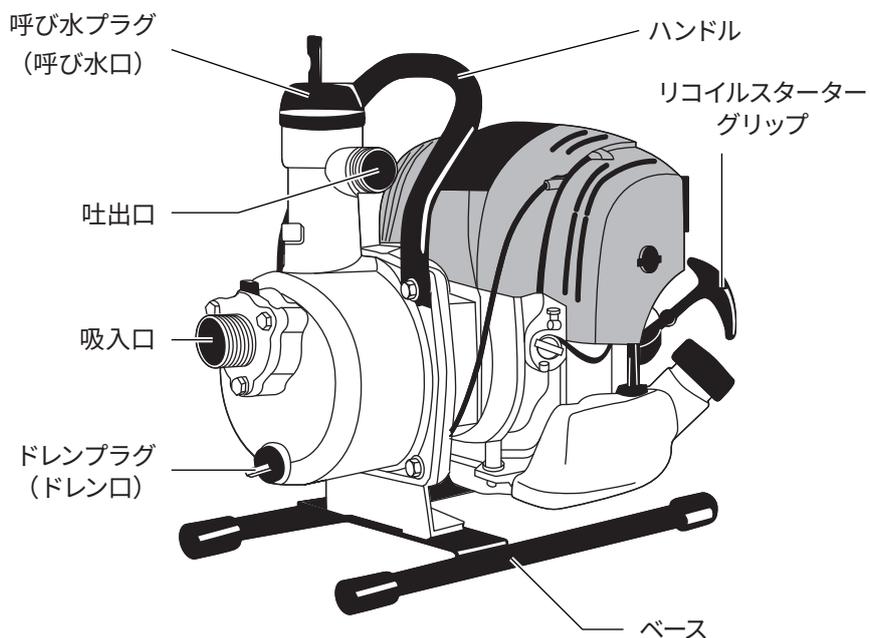
改良のため、予告なく仕様を変更する場合があります。

仕様変更などにより、本機のイラストや内容が一部実機と異なる場合がありますがご了承ください。

乱丁、落丁はお取り換えます。

各部の名称と付属品

1. 各部の名称



2. 付属品

同梱されている付属品がすべてそろっているか確認してください。



ストレーナー 1個



ワンタッチカップリング (25 × 25 mm) 1個



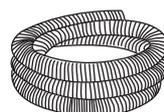
カップリングクミ (25 × 25 mm) 1個



タケノコニップル
(25 × 20 mm・25 × 15 mm) 各1個



ホースバンド
(φ 32) 3個、(φ 26・φ 22) 各1個



吸入ホース (3 m) 1本



エンジン工具 一式

取扱説明書 (本誌)

安全上のご注意

使用の前にこの「安全上のご注意」をよくお読みのうえ正しくお使いください。ここに示した注意事項は、製品を正しくお使いいただき、使用する方や他の人々への危険や損害を未然に防止するためのものです。

- 表示内容を無視して誤った使い方をしたときに生じる危険や損害の程度を「危険」「警告」「注意」に区分し、説明しています。いずれも安全に関する重要な内容ですので、必ず守ってください。

 危険	人が死亡、または重傷を負うおそれの高い内容です。
 警告	人が死亡、または重傷を負うおそれのある内容です。
 注意	人が傷害を負う、および本機やほかの財産に物的損害が発生するおそれのある内容です。

- お守りいただく内容を区分して説明しています。

 してはいけない「禁止」の内容です。	 必ず守っていただく「実行」の内容です。
---	---

- その他の表示

 ここがポイント!	正しい操作のしかたや守っていただく要点などを示しています。
---	-------------------------------

- 本機に関すること

危険  室内および換気や風通しが不十分で排気ガスがこもる場所ではエンジンを始動しない(車内、テント内、トンネル内、倉庫、井戸、船倉、マンホールなど) エンジンの排気ガス中には有害な物質が含まれており、滞留した排気ガスによりガス中毒を起こすおそれがあります。	 本機を水洗いしない 電装部品の事故やショートが起きる原因になります。また湿気や凍結により、使用時に感電する原因になります。
 平たん・水平で硬い場所でエンジンを始動する 傾斜地でエンジンを始動しないでください。	 燃料タンクやホースの破損、またはエンジンや燃料タンクからの燃料漏れがないか確認する 破損や燃料漏れがある場合は、直ちに本誌裏表紙に記載の「工進修理受付窓口」へ修理をご依頼ください。
 高温のエンジンやマフラーに可燃物を接触させない 枯れ草などが触れると火災の原因になります。	警告
 燃料のにおいがする場合は、燃料漏れや周囲に燃料やガソリンなどの引火物がないことを確認し、燃料のにおいが無くなってから運転する 火災・爆発の危険があります。	 幼児・子どもが触れないよう、隔離措置をして安全な場所で使用する
 自動車の室内やトランクにエンジンを載せたまま放置しない 気化した燃料による火災・爆発の危険があります。	 修理技術者を除き、本誌記載内容以外の分解や修理、改造を絶対に行わない 異常動作してケガをするおそれがあります。
	 次のときは本機を使用しない ・ 疲れているとき、身体が不調のとき ・ 酒類や薬を飲んで正常な操作ができないとき

安全上のご注意

警告

- ❗ 点検や清掃時は必ずエンジンを停止する
誤ってエンジンが始動しないようにエンジン
スイッチは「OFF」にし点火プラグキャップ
を取り外してください。

注意

- ❗ 点検・整備はエンジンが冷えてから行う
エンジン停止直後は、エンジンや排気口、エ
ンジンオイルの温度が高くなっているため、
ヤケドのおそれがあります。
- ⊘ 本機を清水または農業用水以外に使用しない
飲料水・泥水・海水・灯油・軽油・重油・ガ
ソリン・薬品・酸性またはアルカリ性の液体
などには使用しないでください。
- ❗ 使用液の温度は5℃以上45℃以下にする
ポンプ破損の原因になります。
- ⊘ 空運転（ポンプ内に水のない状態での運
転）はしない
ポンプ破損の原因になります。
- ❗ 吸入側は必ずサクシオンホースを使用する
ホースが破れ、エンジン不調の原因になります。
- ❗ 吸入・吐出ホースをポンプに接続する際
は、製品付属のカップリング、ホースバン
ドを使用し確実に取り付ける
- ⊘ 運転中は点火プラグキャップや、高圧
コードに触れない
感電のおそれがあります。
- ❗ 製品の廃棄時、および廃油などの処理を
されるときは、環境保護のため、地域の
条例に従う
不明な場合は購入店にご相談ください。
- ❗ 純正品、指定部品を使用する
事故やケガの原因になります。
- ⊘ 吸入側のホース口径は変更しない
吸入不良の原因になります。
- ❗ 必ず付属のストレーナーを取り付けて使用する
砂や異物をポンプが吸い込むと、性能の低
下やポンプの破損の原因になります。

■ 燃料に関すること

危険

- ❗ ガソリンを取り扱うときは次のことに注意する
 - エンジンを停止し、エンジンが充分冷
えていることを確認する
 - タバコ、炎や火花などの火気を近づけ
ない
 - 身体の静電気を放電する
火気や人体の静電気の放電による火花がガ
ソリンに引火し、火災の原因になります。
- ❗ 次のような所で給油する
 - 焚き火などの火種がない所
 - 換気が良い所
 - 地面が平たん・水平で硬い所
- ⊘ エンジンが熱いときは給油しない
エンジン停止直後などエンジンが熱いとき
に給油すると引火のおそれがあります。
- ❗ 運搬時はガソリンを抜く
ガソリンが漏れ、火災の原因になります。

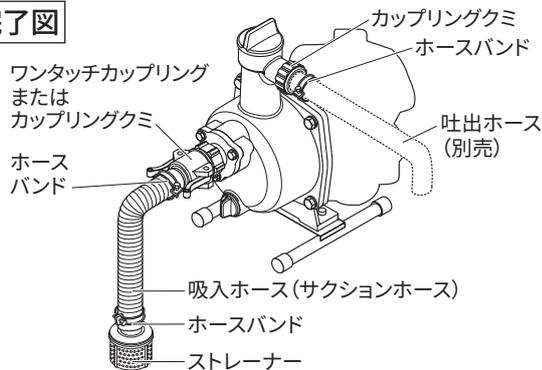
注意

- ⊘ ガソリンやエンジンオイルをこぼさない
こぼれた場合は、きれいに拭き取り、乾かし
てからエンジンを始動してください。
拭き取った布切れなどは、火災と環境に充分
に注意して処分してください。
- ⊘ 古いガソリンは使用しない
携行缶などで長期保管したガソリンは、エ
ンジン始動不良や故障の原因になります。
- ❗ 長期保管時は必ず燃料を抜く
燃料を入れたまま長期間放置すると不純物
が燃料通路に詰まり、エンジン不調の原因
になります。

組み立て

作業前に必ず3ページ「安全上のご注意」をお読みください。

完了図



1. 吸入ホースについて

吸入ホースは付属のサクシオンホースを使用してください。3 m以上の長さが必要な場合、つないでのご使用は避け、必要な長さのサクシオンホースをお求めください。

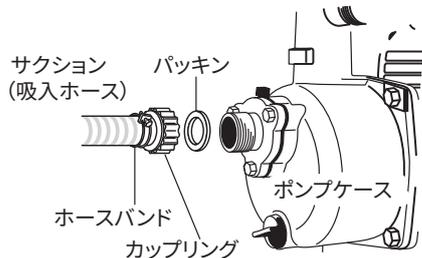
吸入側のホース口径を変えて使用することはできません。吸入不良の原因になります。

ホースの接続には、製品付属のカップリング・ホースバンドをご使用のうえ、確実に取り付けてください。



ここがポイント!

- 呼び水口より注水し、運転して揚水しない場合は、ほとんど吸入ホースの接続不良が原因で、吸入側から空気が混入して揚水しません。揚水不能の場合は、まず吸入ホースの接続をもう一度確認のうえ、運転してください。

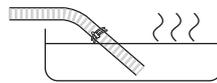


エア噛み混みによる吸入不良を防ぐため、次の手順でしっかり取り付けてください。

1) サクシオンホースにホースバンドを通す



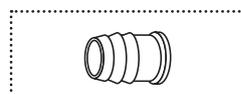
2) サクシオンホースを熱湯につけて柔らかくする



ここがポイント!

- ヤケドにご注意ください。また、ドライヤーの温風をあてても柔らかくなります。

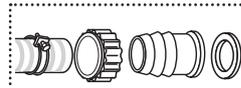
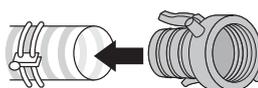
3) タケノコ部に軽くオイルを塗る



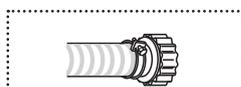
ワンタッチカップリングの場合

カップリングクミの場合

4) ホースが柔らかいうちにタケノコ(カップリングなど)を奥までしっかりさし込む



5) ホースバンドでしっかりと固定する

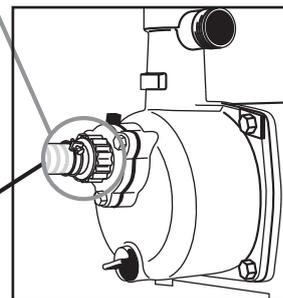
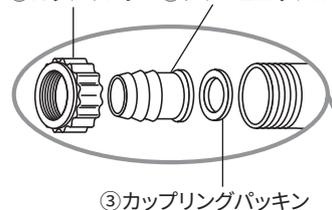


2. カップリングの取り付け

機種によって付属部品は異なります。ご使用になる口径をご確認のうえ、必要な部品を取り付けてください。

■ カップリングクミの場合

- ①カップリング ②タケノコニップル



組み立て



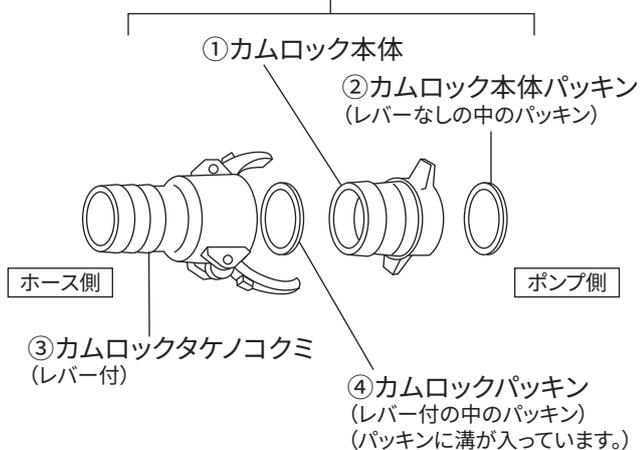
ここがポイント!

- カップリングは必ず①→②→③の順に取り付けてください。パッキンの取り付け順番を誤ると、エア吸い込みの原因になり水を正常に吸い上げることができません。

■ ワンタッチカップリングの場合

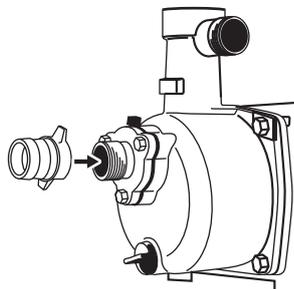
吸入口・吐出口どちらにも取り付けできます。

⑤ワンタッチカップリングクミ(①～④一式)

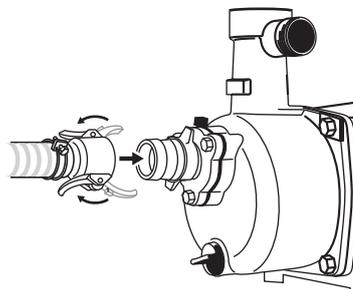


1) ①カムロック本体、③カムロックタケノコクミにそれぞれパッキンが入っていることを確かめる

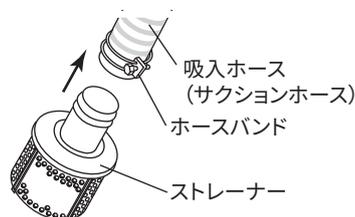
2) ポンプの吸入口または吐出口に①カムロック本体を取り付ける



3) ①カムロック本体に、③カムロックタケノコクミをさし込み、レバーをホース側に倒して固定する



3. ストレーナーの取り付け



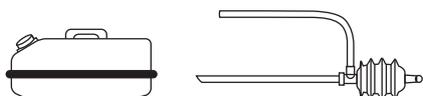
ここがポイント!

- 必ず製品付属のストレーナーを取り付けてご使用ください。使用しない場合、砂や異物をポンプが吸い込み、性能の低下やポンプの破損の原因になります。

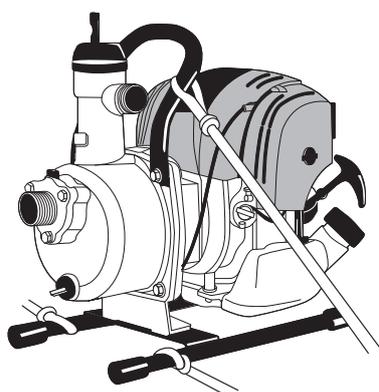
運搬

本機を車両などで運搬する場合には、次のことを必ず守ってください。

- 1) エンジン停止状態で、冷えていることを確認する
- 2) 燃料タンクに燃料が残っている場合、手順3) と4) を行う
- 3) 消防法に適合した燃料携行缶と、手動式ガソリン用ポンプを用意する



- 4) 燃料タンクキャップを開け、手順3) で用意した燃料携行缶にポンプを使用して燃料を移す
- 5) 本機が落下、転倒、破損などしないような場所を選んで積載して、ロープなどでしっかり固定する



給油

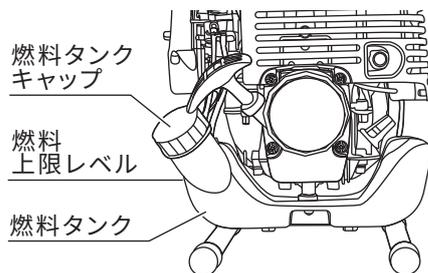
作業前に必ず3ページ「安全上のご注意」をお読みください。

本機には「ガソリン」と「エンジンオイル」が必要です。必ず給油してからご使用ください。

指定ガソリンおよびエンジンオイルについては18ページ「仕様」をご覧ください。

1. ガソリン

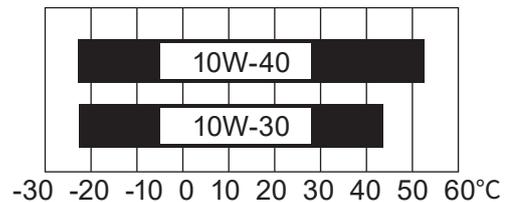
- 1) ガソリンを準備する
- 2) エンジン停止状態で、冷えていることを確認する
- 3) 燃料タンクキャップを少しゆるめ、燃料タンク内と外部との気圧差をなくす
- 4) 燃料タンクキャップを外す
- 5) 給油口を上向きになるように傾けて、空気を抜きながら給油する
 - 給油口いっぱいまで入れないでください。
 - 燃料タンクキャップの周りをよく拭き、異物が燃料タンク内に入るのを防いでください。
- 6) 補給後、タンクキャップをしっかり締め付ける



2. エンジンオイル

- 1) エンジンオイルを準備する

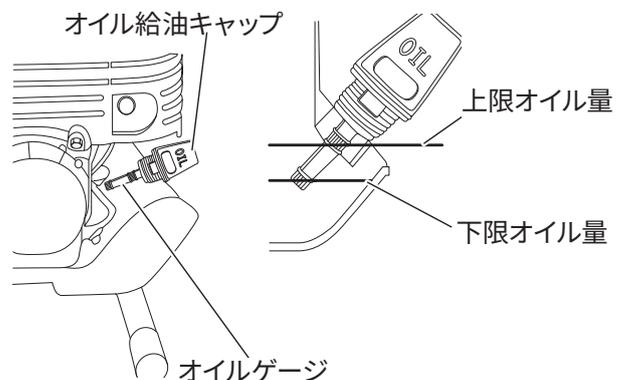
使用環境の外気温が次の範囲内であれば、記載の粘度のエンジンオイルが使用できます。



ここがポイント!

- SA級～SD級のエンジンオイルを使用するとエンジンが焼き付き、故障の原因になります。
- 2サイクル用エンジンオイルは、エンジン故障の原因になります。
- 指定外のエンジンオイルを使用したことによるエンジンの焼き付きは保証の対象外です。

- 2) 本機を水平な場所に置く
- 3) オイル給油キャップを取り外し、エンジンオイルを給油する



オイルゲージを布などで拭き、オイル給油口にさし込んでエンジンオイルの量を目盛りで確認する

- 4) オイル給油キャップを取り付け、確実に締め付ける



ここがポイント!

- こぼれたエンジンオイルは必ず拭き取ってください。

作業前点検

1. 始動前点検

部位	項目
各部	ネジ、ナット類の緩み点検
燃料配管部	点検
エアクリーナー	点検
冷却風取入口、冷却フィン、マフラー周辺	点検・清掃



ここがポイント!

- 不意な始動を防ぐため、点検・整備時は点火プラグの配線を外してください。
- 運転直後は、エンジンが熱くなっていますので触らないでください。
- 燃料（ガソリン）取り扱い時は、火気厳禁。
- エンジンを水洗いしないでください。
- 燃料タンクキャップは確実にしめてください。
- ひび割れや亀裂、さし込み部からの抜けがあれば燃料が漏れ、火災・爆発の原因になりますのでパイプの交換または整備をしてください。

2. 始動時の注意事項



プライミングポンプ操作を充分行う

本エンジンはプライミングポンプ操作を行ったとき、余分な燃料はタンクに戻る構造になっています。プライミングポンプ操作を多く行っても吸い込み過ぎにはなりません。むしろ少ない場合には始動不良になることがありますので、充分行ってください。



ここがポイント!

- うまく始動しない場合は、チョークレバー・スロットルレバーの位置を変えて再度繰り返してください。



マフラー付近に障害物を置かない



建物およびその他の設備から2m以上離して設置する



周囲に燃えやすい物(特にガソリン)や危険物、また火の気がないことを確認する



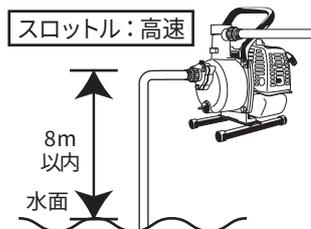
ポンプ内に呼び水が満水であることを確認する



吐出ホース先端に障害物などが無いことを確認する



吸い上げは高さ8m以内で行う
8m以上の高さには吸い上げできません。



吸入ホース先端のストレーナーが水中にあることを確認する

水底が泥・砂状の場合、ポンプに吸入しないよう、ストレーナーを水底より浮かせる等保護措置をとってください。

3. 運転中の注意事項

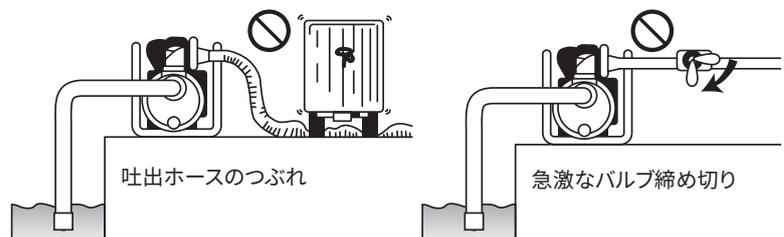


運転中は点火プラグキャップや高圧コードに触れない
感電のおそれがあります。



ウォーターハンマー現象に注意する

ポンプ運転中に吐出ホースを踏んだり、吐出側のバルブを急激に締め切ったりすると、瞬間的に大きな圧力がポンプケース内にかかります。これはウォーターハンマー現象と呼ばれ、ポンプ破損の原因になりますので、ご注意ください。

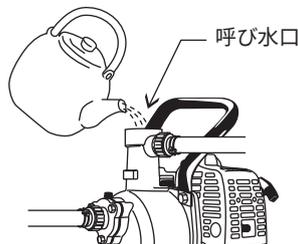


エンジンの始動／停止

1. 呼び水

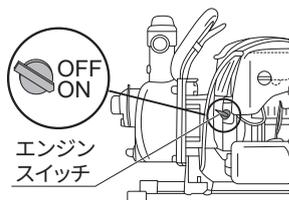
ポンプは自吸式ですので、運転前には必ず呼び水口より水を注入して、ポンプ内を満水の状態にしてください。呼び水が不足すると、自吸性能が低下、または自吸しなくなります。

呼び水を入れずに運転（空運転）するとシール部分が焼損し、ポンプの破損の原因になります。空運転による破損は保証の対象外です。



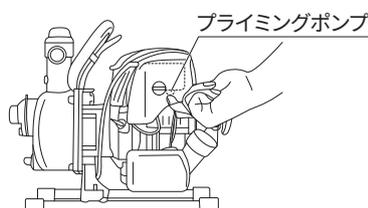
2. エンジンの始動

1) エンジンスイッチを「ON」にする



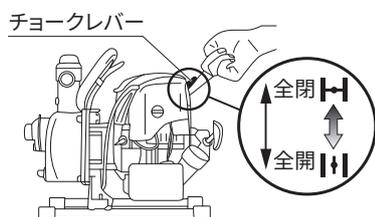
2) プライミングポンプを10回以上指で押す

燃料をキャブレターに汲み上げるためです。

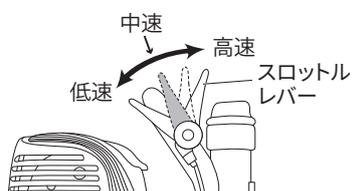


3) チョークレバーを全閉位置（上側）にする

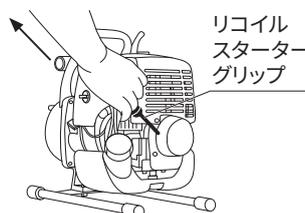
燃料が残っていて、エンジンが暖まっている場合や夏期はチョークレバーを全開位置（下側）にする



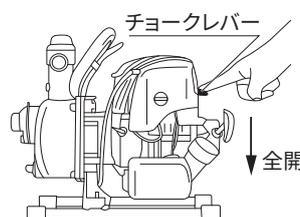
4) スロットルレバーを「中速」にする



5) 本機を押さえ、リコイルスターターグリップ（以下リコイル）を握り勢いよく引く



6) 始動後、エンジンの調子を見ながら徐々にチョークレバーを全開位置（下側）にする



ここがポイント！

- エンジンを手前に始動するには、エンジンの「初爆音」を聞いてチョークレバーの操作をしてください（次ページ参照）。

7) スロットルレバーを「低速」にして2～3分暖気運転を行う

エンジンが暖まる前に回転数を上げないでください。燃料供給が追い付かず失速し、エンジン停止につながります。

8) 水の自吸のため、スロットルレバーを「高速」にする

エンジンが低速～中速だと水を吸い上げる（自吸）力が足りません。また、水の温度が高くて自吸に時間がかかります。自吸に5分以上かかる場合はエンジンを停止し、始動手順を再度確認してください。

警告



以下を守ること。守らないとヤケドまたは本機の故障の可能性あり

- 吸入口、吐出口をふさがない
- ポンプ内が高圧に、およびポンプ内外が高温になったとき、プラグやホースを取り外さない

ポンプ内外が高温になったときは、エンジンを停止し本機を冷ましてから点検を行ってください。

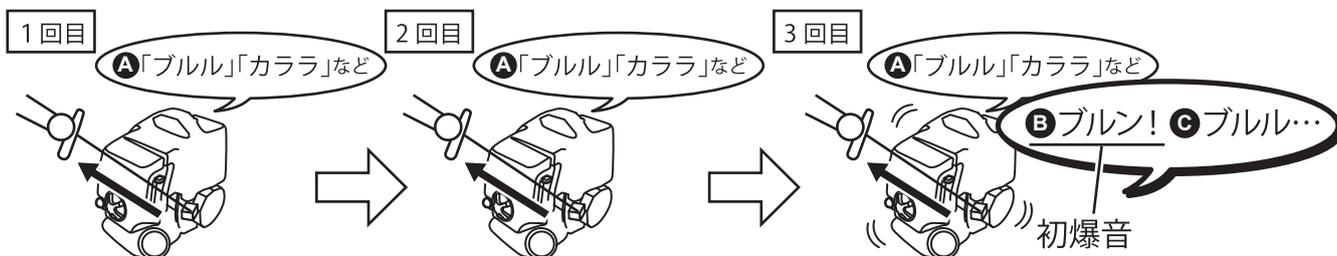
9) 水の吐出が始まったらスロットルレバーを調節し、任意の吐出量で使用する

エンジンの始動/停止

■ エンジンの音

リコイルを引くと「**A** エンジン内部が動く音」がします。
 その音に加えて、エンジンが始動しそうになると、リコイルを引いたときに重い「**B** 初爆音」が鳴ります。
 「**B** 初爆音」を聞き、「エンジンが始動しそうなる感覚」をつかむことが上手にエンジンを始動するポイントです。
 なおエンジンが始動すると、「**C** 爆発音」が鳴り続けます。

例：リコイルを引いて3回目で爆発音がして、エンジンが始動したときの音



■ チョークレバー (以下「チョーク」) の操作

状態によって次をお試しください。

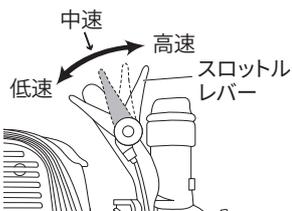
状態	対処	解説
リコイルを何回も (5 回程度) 引いても B 初爆音がしない、または聞き逃した	チョークの位置を逆 (上にしていただ下) にしてリコイルを引く	<ul style="list-style-type: none"> • チョークを上 (閉) にしていた場合: チョークを上になくてもエンジンが始動する状態 (エンジンが適温) です • チョークを下 (開) にしていた場合: エンジン内部の温度が低い場合ガソリン濃度が足りず、始動できない状態です
<p>例：チョークが上 (閉) で 1 回目で B 初爆音が鳴ったが聞き逃した。その後チョークを操作し 6 回目で始動</p> <p>A にまぎれた B 初爆音を聞き逃したため、何回もリコイルを引き続けることに……</p> <p>おかしいと思ったときはチョークの位置を逆に見ましよう。</p>		
チョークの位置が上 (閉) で、初爆音がしたがエンジンが始動しない	チョークを下 (開) にしてリコイルを引く	B 初爆音がした後チョークを上 (閉) のままりコイルを引き続けても、ガソリン濃度が濃すぎてエンジンが始動できなくなります。(点火プラグの「かぶり」)

「チョーク」とは:

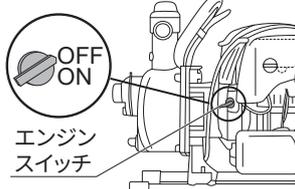
寒いとき・エンジンが冷えているときに、ガソリンエンジン内部へのガソリンの濃度を手動で調整するための装置

3. エンジンの停止

1) スロットルレバーを「低速」にする

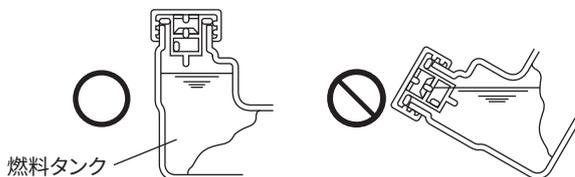


2) エンジンスイッチを「OFF」にして、エンジンを停止させる



ここがポイント!

- 燃料は使い切る前に補給すると次の始動が容易になります。
- 本機を使用しないときは、エンジンを水平に置いてください。(タンクキャップが燃料につかっていると燃料が漏れることがあります。)

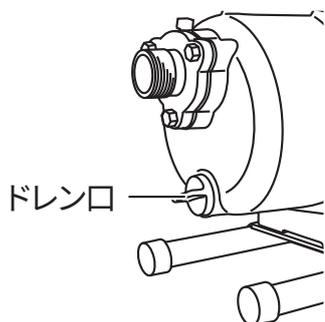


お手入れと保管

1. お手入れ

- 1) 雨などがかからず、平たん・水平で硬い場所に置く
- 2) 本機が冷めるまで待つ
- 3) 水抜きをする

ドレン口のキャップを開いてタンク内に残った水を排出します。



ここがポイント!

- 冬期にて0℃以下になりますと、ケーシング内の水が氷になり、ポンプを破損させるおそれがありますので、使用後は必ずポンプケース下部のドレン口より排水してください。

- 4) 各部についたゴミを取り除き清掃する

通常の使用後は「保管」を、次回の使用が30日以上になる場合は「長期保管」を行ってください。

2. 保管

- 1) お手入れをすべて行う

- 2) 次のような場所を避けて保管する

- 乳幼児、子どもの手の届く所や簡単に持ち出せる所
- 熱源のそばや、真夏の閉め切った自動車内など高温になる所
- 湿気の多い所
- 湿度や温度の急変する所
- 直射日光の当たる所
- 揮発性物質の置いてある所

3. 長期保管

- 1) お手入れをすべて行う
- 2) 燃料タンク内の燃料を抜き取った後に、エンジンを始動して燃料切れでエンストするまで運転する
呼び水は必ず入れてください。
- 3) 燃料タンク内部および燃料フィルターを新しい白灯油で洗浄する
- 4) 点火プラグを外し、プラグ孔より新しいエンジンオイルを少量注入する
- 5) リコイルをゆっくり数回引く
- 6) 点火プラグを取り付ける
- 7) リコイルを引いて、重く感じる位置で止める
- 8) 各部の汚れをきれいに清掃し、保管する
(保管の手順 2)「次のような場所を避けて保管する」参照



ここがポイント!

- 燃料を入れたまま長期間放置すると燃料中の不純物が気化器や燃料フィルターなどの燃料通路に詰まり、エンジン不調の原因になりますので、長期保管時は燃料を必ず抜いてください。

定期点検を行いましょ

本機をいつまでも安全で快適にお使いいただくために、定期点検を行いましょ。
点検の結果、異常があった場合は本機を使用しないでください。

- 点検をするときは、エンジンを停止してください。
- 期間または運転時間のどちらかが経過後、すみやかに実施してください。

対象部位	点検項目	時期 ^{※1}				
		作業開始 前点検	1か月ごと または 初回8時間 運転目	3か月ごと または 20時間運 転ごと	6か月ごと または 50時間運 転ごと	24か月ごと
各部	ネジ、ナット類の緩み点検	●				
エンジンオイル	点検	●				
	交換		●		●	
燃料配管部	点検	●			●	
	交換					● ^{※1}
エアクリーナー	点検・清掃 (17 ページ)	●		● ^{※2}		
	交換					● ^{※3}
冷却風取入口、 冷却フィン、 マフラー周辺	点検・清掃				●	
点火プラグ	点検・清掃 (17 ページ)				●	
	交換 (17 ページ)					●
吸気、排気弁	点検・調整				● ^{※1}	
アイドルスピード	点検・調整				● ^{※1}	
燃料タンク	点検・清掃				●	
燃料フィルター	点検・清掃				●	
マフラー	点検・清掃			●		
	交換					● ^{※1}

※1 適切な工具と整備技術を必要としますので、本誌裏表紙に記載の「工進修理受付窓口」へご相談ください。エンジンをいつまでも安全で快適に使用していただくために、部品交換を推奨いたします。

※2 ほこりの多い場所で使用した場合は、1日1回点検、清掃を行ってください。

※3 エアクリーナーの交換は、エレメントのみ交換を行ってください。

• 運転時間または期間のどちらか早く達した方で実施してください。点検間隔がそれ以前の間隔を超え次の間隔に達している場合は、それまでに含まれている項目は同時に実施してください。

「故障かな？」と思ったら（故障と処置）

お客様で分解・修理は絶対にしないでください。

点検・修理は本誌裏表紙に記載の「工進修理受付窓口」へご相談ください。

症状	考えられる原因	処置	参照ページ
リコイルスターターグリップが引けない、または重い	古い燃料使用によるエンジン不調	燃料を入れ替え改善が行われない場合、本誌裏表紙に記載の「工進修理受付窓口」へご相談ください	—
	エンジン内のサビ付き	お客様では修理せずに、本誌裏表紙に記載の「工進修理受付窓口」へご相談ください	—
	エンジンの焼き付き		
	インペラーの固着	インペラーの分解・掃除	16
	インペラーに異物が詰まった	インペラーの分解・掃除	16
水量が少ない	吸入側にてエアの混入	吸入側の配管チェック	16
	エンジンの出力低下	お客様では修理せずに、本誌裏表紙に記載の「工進修理受付窓口」へご相談ください	—
	メカニカルシールの故障		
	吸入揚程が高い	低くする	—
	吸入パイプが細いまたは長い	太くまたは短くする	—
	水路の漏水	漏れ止めをする	—
	インペラーに異物が詰まった	インペラーの分解・掃除	16
	インペラー・渦巻室の摩耗	お客様では修理せずに、本誌裏表紙に記載の「工進修理受付窓口」へご相談ください	—
吸い上げない	吸入側にてエアの吸い込み	吸入側の配管チェック	16
	ポンプケース内の呼び水不足	呼び水をする	10
	ドレン口のプラグの締め付け不良	締め付ける	12
	エンジンの回転不良	お客様では修理せずに、本誌裏表紙に記載の「工進修理受付窓口」へご相談ください	—
	メカニカルシールの故障		
	吸入ホースがサクシオンホースではない	サクシオンホースを使用する	—
エンジンが始動しない	古い燃料使用によるエンジン不調	燃料を入れ替え改善が行われない場合、本誌裏表紙に記載の「工進修理受付窓口」へご相談ください	—
	プラグかぶり	プラグ点検・交換	17
	エアクリーナーの汚れ	エアクリーナーの清掃	17
	キャブレターが詰まっている	お客様では修理せずに、本誌裏表紙に記載の「工進修理受付窓口」へご相談ください	—
	上記を確認しても改善がみられない		
エンジンが数分動いた後止まる	ポンプを傾けた状態で置いている	水平な所に設置する	—
	屋内で使用 または、シートなどが被っている	屋外で使用する もしくはシートなどは被せない	—
	燃料が古い	新しい燃料を使用する	—

整備

1. エンジンオイルの交換

- エンジンオイルが汚れているとエンジンの寿命を著しく縮めます。交換時期、オイル容量を守りましょう。
- 給油されたエンジンオイルは自然に劣化します。定期的に点検・交換を行ってください。
- 次のようなエンジンオイルは使用しないでください。長期保管により変質したもの／水分、サビ、ゴミなどの異物が混ざったもの



ここがポイント!

- エンジンオイルはエンジンが冷えてから交換してください。ヤケドのおそれがあります。

1.1 古いエンジンオイルの排出

- 1) 燃料給油キャップが締め付けられていることを確認する
- 2) 排出するエンジンオイルを受ける容器を用意する
- 3) オイル給油キャップを外す

本機を注入口側に傾け、エンジンオイルを排出します。



ここがポイント!

- 廃液は、自治体の指示に従って廃棄してください。

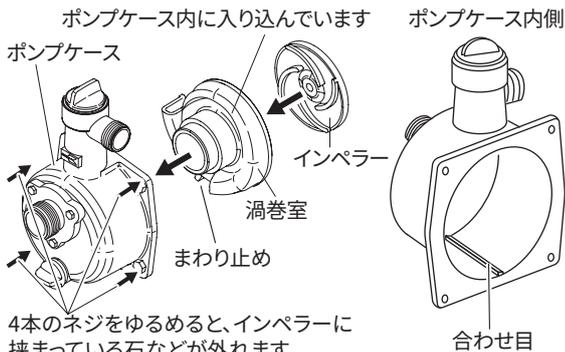
1.2 新しいエンジンオイルの給油

(8 ページ「2. エンジンオイル」参照)

2. インペラーの分解・掃除

1) ポンプケースの4本のネジをゆるめ、インペラーなどに挟まっている異物を取り除く

インペラーはシャフトから外さないでください。渦巻室が外れた場合は、まわり止めをポンプケース側の合わせ目に合わせて、取り付けてください。



4本のネジをゆるめると、インペラーに挟まっている石などが外れます

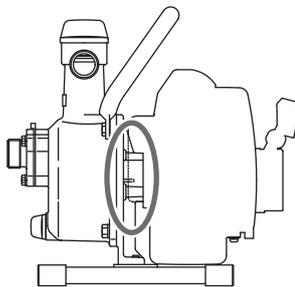
※イラストはイメージです。
機種によっては渦巻室の向きが逆のものもあります。

2) 異物を外した後、元に戻す

インペラーなどが削れていれば、交換が必要です。本誌裏表紙に記載の「工進修理受付窓口」へご相談ください。

3. メカニカルシールについて

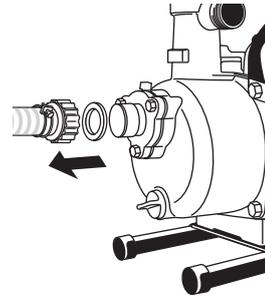
ポンプとエンジンの間(○印下部)から水漏れが発生したときは、メカニカルシールの劣化・故障によるものです。本誌裏表紙に記載の「工進修理受付窓口」へご相談ください。



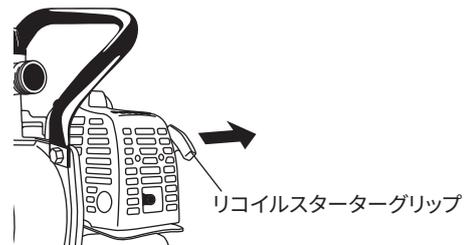
4. 吸入側の配管チェック

吸い上げない・水量が少ない場合、その多くが吸入側ホースのエアー吸い込みが原因です。この場合次の手順で確認してください。

1) 吸入ホースを外す

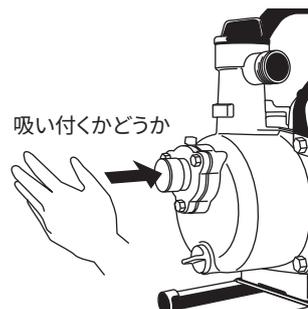


2) 呼び水を入れた状態でエンジンをかける



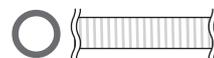
3) 吸入口に手をくっつけて、約30秒間待つ

手が吸い付く感じがあればポンプ側の問題でなく、ホースの接続不良です。

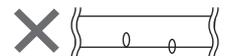


4) 再度パッキンが入っているか、吸入ホースに穴がないかなど確認する

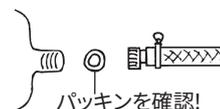
サクシヨンホース
(折れ曲がらないホース)



穴あきホース



ペッタンコのホース



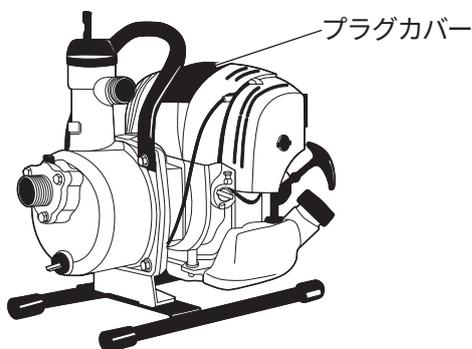
5. プラグの点検と交換

点火プラグが汚れていたり、電極が摩耗したりすると、完全な火花が飛ばなくなりエンジン不調の原因になります。点火プラグは徐々に劣化しますので、定期的に外して点検を行う必要があります。

指定点火プラグについては 18 ページ「仕様」をご覧ください。

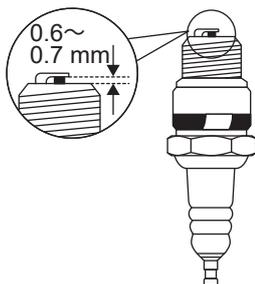
1) プラグカバーおよび点火プラグキャップを外し、点火プラグを取り外す

プラグカバーの固定部は取りはずさないでください。点火プラグがぬれているときや汚れているときは布切れなどで拭いてください。



2) 点火プラグの電極およびがい子部に堆積しているカーボンを清掃後、電極のすき間を 0.6~0.7 mm に調整する

点火プラグの清掃やすき間調節をしてもエンジンがかからない場合は、新しいプラグに交換してください。



3) 元通りに取り付ける

プラグ交換後はプラグカバーを閉じてロックをかけてください。



6. エアクリーナーの清掃

1) エアクリーナーカバーを開く

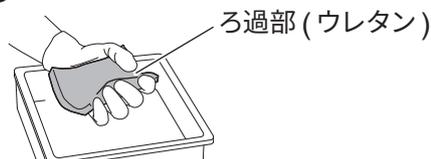
仕様によりネジが付いている場合があります。



2) エレメントを取り外して、劣化していないことを確認する

エレメントが劣化している場合は交換してください。

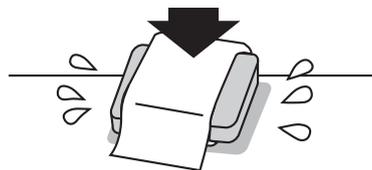
3) ろ過部(ウレタン)をきれいな灯油で洗浄する



4) ろ過部(ウレタン)の灯油をよくしぼる

5) ろ過部(ウレタン)をエンジンオイルにひたして、布で包み押しつぶすようにしぼる

垂れない程度に余分なエンジンオイルを取り除いてください。



ここがポイント!

- ろ過部(ウレタン)をねじらないでください。破れてエンジン不調の原因になります。

6) ろ過部やエアクリーナーカバーなど各部品に損傷がないことを確認する

7) 取り外しと逆の手順で取り付ける

ここがポイント!

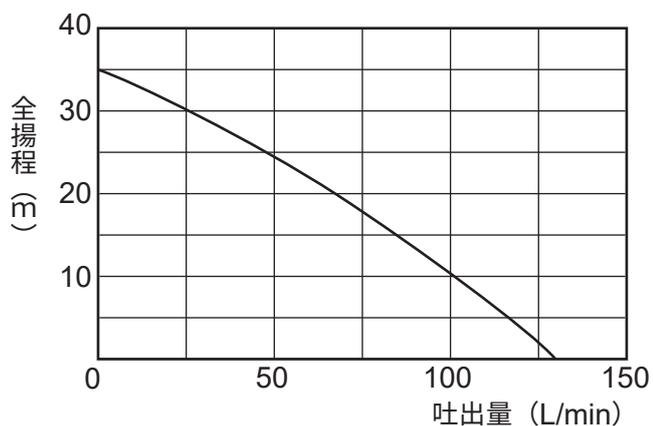
- ろ過部はめくれやずれのないように、カバーは確実に取り付けてください。
- ろ過部を取り付けていない状態で、エンジンを始動させないでください。エンジンの耐久性に著しく悪影響を与えます。
- 廃液は、自治体の指示に従って廃棄してください。

仕様

1. 主な仕様

機種	SEV-25F		
製品名	エンジンポンプ		
用途	水の移送		
ポンプ	口径	吐出	25 mm (1 in)
		吸入	25 mm (1 in)
	接続ネジ	管用平行ネジ (G ネジ)	
	全揚程	35 m	
	吐出量	130 L/min	
	最大吸入揚程	8 m	
エンジン	名称	空冷 4 サイクルガソリンエンジン	
	モデル	メーカー：工進 名称：K35	
	排気量	35 cm ³	
	最大出力	0.81 kW (1.1 PS) / 6,500 rpm	
	燃料	自動車用無鉛ガソリン	
	燃料タンク容量	約 0.73 L	
	エンジンオイル	エンジンオイル SE 級以上 SAE 10W-30	
	エンジンオイル容量	約 0.1 L	
	燃料消費目安	約 55 分 (使用条件によって異なります。)	
	始動方式	リコイルスターター方式	
点火プラグ	メーカー：NGK 品番：CMR6A		
製品重量	7.4 kg		
製品外形 L × W × H	395 × 242 × 334 mm		

2. 性能曲線



パーツのご注文は

パーツは、必ず指定のものをご使用ください。

パーツは購入店または弊社製品お取扱店を通じてご注文いただけます。

また、弊社ウェブサイトにてパーツ表、価格をご覧ください。

1. ご注文時のお願い

部品番号（7～9桁）または機種名・JAN、名称、必要な個数を正しくお伝えください。

2. パーツ表・価格

- 1) <https://www.koshin-ltd.co.jp>へ
アクセス



- 2) トップページ「パーツリスト」バナーをク
リック



- 3) エンジンのパーツは「エンジンパーツリスト」バナーをクリック



保証書

レシート(販売証明書)と
共に保管してください

この保証書は本書に明記した期間、条件のもとにおいて、下記記載内容で無償修理をお約束するものです。なお、本書によってお客様の法律上の権利が制限されるものではありません。

保証期間内に取扱説明書、本体貼付ラベルなどの注意書きにしたがった正常なご使用状態で故障した場合には、本記載内容に基づき無償修理いたします。製品と本書、レシート(販売証明書)をご準備のうえ「工進修理受付窓口」へご相談ください。

機種	エンジンポンプ SEV-25F	※お買い上げ日	年 月 日
保証期間	お買い上げ日より1年間	※購入店	〒 住所 店名 電話 ()
お客様	※お名前		

※に記入のない場合は無効になりますので必ずご確認ください。

<保証契約約款>

- 保証期間内でも次の場合は有料修理となります。
 - 〈イ〉 不適切な使用、改造、取扱説明書に記載されている保守・点検以外の分解や修理、弊社指定の純正パーツ以外を使用したことによる故障または損傷、日常点検やお手入れ、整備を怠ったことにより生じた不具合。
 - 〈ロ〉 お買い上げ後の落下、運送等による故障または損傷。
 - 〈ハ〉 火災・地震・水害・落雷・その他天災地変、公害、指定外の使用(電圧、周波数、使用液、使用燃料など)や、使用環境要因による故障または損傷。
 - 〈ニ〉 取扱説明書に記載の用途以外の使用による故障または損傷。
 - 〈ホ〉 本書の提示がない場合、また本書にお客様名、お買い上げ年月日・購入店名の記入またはレシート(販売証明書)の添付がない場合。
 - 〈ヘ〉 本書の字句を書き換えられた場合。また中古販売にて購入したもの。
 - 〈ト〉 同梱付属品、消耗品の交換。
 - 〈チ〉 車両、船舶などへの取り付けや外部要因による故障または損傷(船舶への取り付けは弊社指定船舶用製品を除く)。
- 保証期間内でも次の場合は補償いたしかねます。
 - 〈イ〉 機能上影響のない感覚的現象(音、振動、操作感など)や使用損耗および部品寿命による不具合。
 - 〈ロ〉 製品の不具合や使用によって生じた直接ならびに間接の損害。
- 本書は再発行いたしませんので大切に保管してください。
- 出張修理は対応いたしかねます(弊社指定製品を除く)。
- 本書は日本国内においてのみ有効です。海外での購入ならびに使用については一切責任を負いません。
This warranty is valid only in Japan, also not covered for overseas purchase and use.
- 弊社の判断により、修理に代えて同機種との交換、または同等性能を有する他機種への交換となる場合があります。

株式会社 **工進** 京都府長岡京市神足上八ノ坪12

レシート(販売証明書) 貼付位置

お問い合わせ

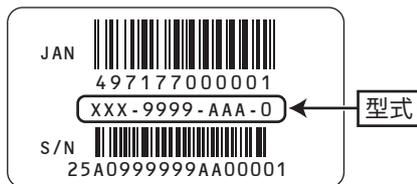
【個人情報のお取り扱いについて】お客様の個人情報保護方針は、弊社ウェブサイトの「プライバシーポリシー」をご覧ください。

お問い合わせの際は、

- 型式(下図参照)、
- お買い上げ年月日、
- 故障状況 など

をお知らせください。

※本体または梱包箱に貼付しています。
一部ラベルのない製品もございます。



■ 製品・パーツの販売についてのお問い合わせは

購入店またはお近くの弊社製品お取扱店にご相談ください。

■ 製品の修理に関するお問い合わせは……「工進修理受付窓口」へ

電話 **0120-987-386** (通話料 無料) 平日: 9:00~17:00
会社休業日・土日祝祭日を除く。受付時間に変更がある場合は、弊社ウェブサイトにてご案内します。

■ ダイレクト修理 ※北海道・沖縄を除く

- ①お電話またはメールで連絡
- ②修理品をお預け(宅配業者が取りに伺います)
- ③センターで修理
- ④ご自宅までお届け
- ⑤お支払いはクレジットカードまたは代引き

株式会社 **工進**



〒617-8511
京都府長岡京市神足上八ノ坪12

<https://www.koshin-ltd.co.jp>

■ 製品に関するお問い合わせは……「お客様相談窓口」へ

Q&A Eメール お客様サポートページ
Eメール pump@koshin-ltd.co.jp
電話 **0120-075-540** (通話料 無料)
キョウトのコーシン
平日: 9:00~17:00
会社休業日・土日祝祭日を除く。受付時間に変更がある場合は、弊社ウェブサイトにてご案内します。